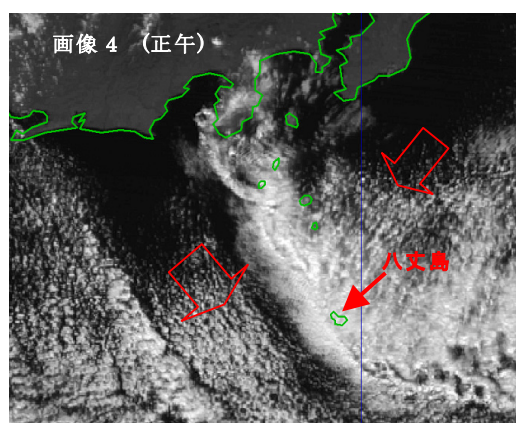
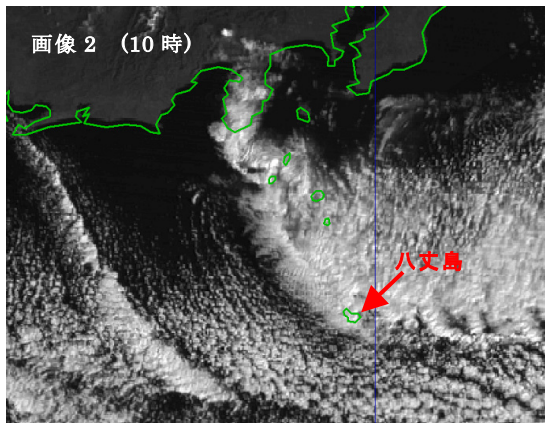
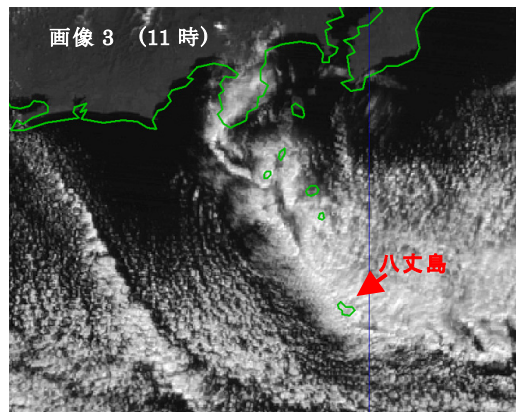
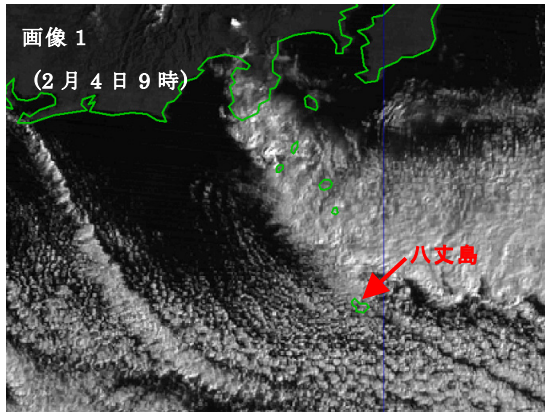


今月の気象衛星画像 (2006年2月)



春は名のみ (立春の大寒波)

2月4日は二十四節季の一つ「立春」である。暦のうえではこの日から春のはずだが、日本列島は寒気に覆われ続け、この日も北日本を中心に大雪による列車の運休などが相次いだ。東京都の八丈島では朝から雪が降り始め 15 時には積雪が 3cm となり 1946 年 3 月 8 日以来の記録に並んだ。

2月4日9時～正午まで各時刻の八丈島付近の衛星可視画像を掲げた(画像1～4)。伊豆半島から南南東へ白く輝く対流雲列が扇形に伸びているが、この雲域の北側では北東風が、南側では北西風が吹いていることが下層雲の走向から推定できる(画像4の□参照)。積雪をもたらした対流雲列は画像1では八丈島の北側にあるが、画像4では完全に八丈島の南まで南下している。八丈島のアメダス観測によると9時には西北西(3.7m/s)の風が吹いていたが、風向はその後東に転じ、10時30分には北東の風(0.9m/s)となった。

寒気に伴う北西風が日本列島の地形の影響を受けて関東の東海上で収束し対流雲列を発生させることは比較的良好に観測されるが、この対流雲列により八丈島で積雪を観測することはあまりない。今回は寒気の勢いが強く下層においても積雪をもたらすほどの寒気(850hPa で-6℃程度)が八丈島付近まで達したことが原因の一つと考えられる。

(気象衛星センター)